

赤十字社に市内産イチゴで作った J Aオリジナル加工品を寄贈

J A相模原市は、日本赤十字社 神奈川県赤十字血液センター湘南事業所の佐藤邦男事業所長に市内産のイチゴで作った加工品「いちごふるふる」(1袋150g) 500個を寄贈した。

原材料のイチゴは昨年、市内のイチゴ農家3軒から同 J A職員も協力して過熟したイチゴ約650kgを摘み取ったもの。廃棄せず商品化できないかと試行錯誤した同 J Aのオリジナル商品。

寄贈したオリジナル商品は今後、中央区の相模原市役所前や緑区の J R橋本駅北口、南区の相模大野駅前通りで献血協力者に配布する予定だ。配布することで地域貢献活動に協力し、相模原の農畜産物の P Rと生産者所得向上を目指すのが目的。

同 J Aの小泉幸隆代表理事組合長は「今後も相模原農業を知ってもらおうきっかけと農家所得向上につながるよう尽力したい。」と話した。



絵解き=いちごふるふるを手を持つ小泉組合長(右)と佐藤所長